

戦国時代東北最大規模の守りの城・石垣の城

柏木城



柏木城

天正十二年（一五八四）大塩裏磐温泉の南に、面積五〇ヘクタールにも及ぶ葦名氏が築いた大規模な柏木城跡があります。

堀跡や土塁、石垣、櫓台が東西一キロ以上に残ります。城代には、三瓶大蔵、穴沢俊次が住み、一五〇騎が常駐し、葦名氏が総力をあげて、政宗に対抗し守備した「番城」。巨大な「守りの山城」です。

東北最大級とされる会津美里町本郷の向羽黒山城跡に匹敵する山城で、信州や関西の技術を持つ石垣の城。武田信玄の城造りの影響を受けた甲州流によって築かれた丸馬出（まるうまだし）があります。

門の入り口となる枡形（ますがた）は、当時の先端技術で造られています。

天正十八年（一五八九）の伊達政宗の会津侵攻により、城は放棄されます。

駐軍は北塩原郵便局西の、大塩の商工会・清野六郎（柏木城の家臣）屋敷跡です。

文責 石田明夫

